

【大学院における教育研究のための人的体制】経営情報学研究科

1 教員組織

(1) 大学院研究科の理念・目的並びに教育課程の種類、性格、学生数との関係における当該大学院研究科の教員組織の適切性、妥当性

現状の説明

本学では、大学院専任の教員は配置していない。したがって学部担当教員の中から資格審査を実施して大学院教員組織を構成している。研究科委員会は、博士後期課程指導教授、博士後期課程指導補助教授、博士前期課程指導教授、大学院授業担当教員の4つの資格に分類された教員によって構成され、それぞれの教員は経営、情報システム、社会情報の3つのいずれかの系列に配属されている。大学院研究科は研究科委員長と専攻主事をおいており、それぞれの教員は資格に対応して、拡大研究科委員会（大学院の全教員で組織）、本則研究科委員会（博士後期課程指導教授で構成）などを運営している。

点検・評価

長所と問題点

将来の改善・改革に向けた方策

研究科委員会の教員が4つの資格に分類されているのは、博士後期課程が後から設置されたためであり、博士後期課程の完成年度を経ても資格審査の方法が整備できない状況にあった。このままでは博士後期課程の指導が制限され、組織も複雑で学生の指導にも支障がでることが懸念される。そこで、本年度、一貫した博士課程指導教授及び大学院授業担当教員の資格審査基準を定め、次年度以降の任免、昇格に備えることとした。今後は博士課程指導教授と大学院授業担当教員の2つに資格に統合して運営していくこととしている。

2 研究支援職員

(1) ティーチング・アシスタント、リサーチ・アシスタントの制度化の状況とその活用

現状の説明

学部授業科目でコンピュータ演習などの演習科目については、大学院生のティーチング・アシスタント制度を導入し、教員の授業補助を実施している。ティーチング・アシスタントは、当該コンピュータ科目に関する知識、技術と経験を有する学生を選抜している。ティーチング・アシスタント制度は、学部学生の教育効果のレベルアップと同時に、大学院生に教育指導経験を積ませることができる。また、奨学金にかわる手当で支給の効果もある。

点検・評価

長所と問題点

将来の改善・改革に向けた方策

ティーチング・アシスタントに時間外の仕事を与えないような配慮が必要である。

また、ティーチング・アシスタントが特定の学生に集中することで、日ごろの研究活動に支障をきたさないかとの指摘もあるので、学生の割り当てに配慮する予定である。

3 教員の募集・任免・昇格に関する基準・手続

(1) 大学院担当の専任教員の募集・任免・昇格に関する基準・手続の内容とその運用の適切性

現状の説明

大学院では人事権を有しておらず、大学院専任の教員は配置していない。したがって学部担当教員の中から資格審査を実施している。

点検・評価

長所と問題点

将来の改善・改革に向けた方策

平成11年4月の博士後期課程の設置時には、文部科学省の審査に基づき後期課程指導教授を任命しており、その後の学内審査では、博士前期課程指導教授の任命の範囲にとどまっていたが、本年度、一貫した博士課程指導教授及び大学院授業担当教員の資格審査基準を定め、次年度以降の任免、昇格に備えることとした。

《大学院における研究活動と研究体制の整備》

【大学院研究科】経営情報学研究科

A 研究活動

1 研究活動

(1) 論文等研究成果の発表状況

現状の説明

論文等研究成果の発表状況については、大学基礎データ「V 研究活動と研究体制の整備」「1 専任教員の教育・研究業績」（別冊）にも集約して掲載しているが、研究成果の多くは次の研究助成を得て行われる研究プログラムの遂行によって発表されている。

(2) 研究助成を得て行われる研究プログラムの展開状況

現状の説明

東京情報大学ハイテク・リサーチ・センター

平成8年、文部省（当時）は全国の私立大学の研究基盤を強化すべく、「私立大学等学術研究高度化推進事業（ハイテク・リサーチ・センター整備事業）構想」を